

子宮筋腫の新しい治療について（子宮動脈塞栓術；UAE）

子宮筋腫とは

子宮筋腫は子宮の筋肉にできる良性の腫瘍です。できる場所や大きさによって、症状は様々ですが、良性腫瘍であり転移や悪性になることは基本的にありません。

子宮筋腫は35歳以上の女性の20～30%、40歳以上の女性では40～50%にみられます。

子宮筋腫の分類

子宮筋腫は発生する場所により、漿膜下筋腫・筋層内筋腫・粘膜下筋腫に分類されます。

○漿膜下筋腫

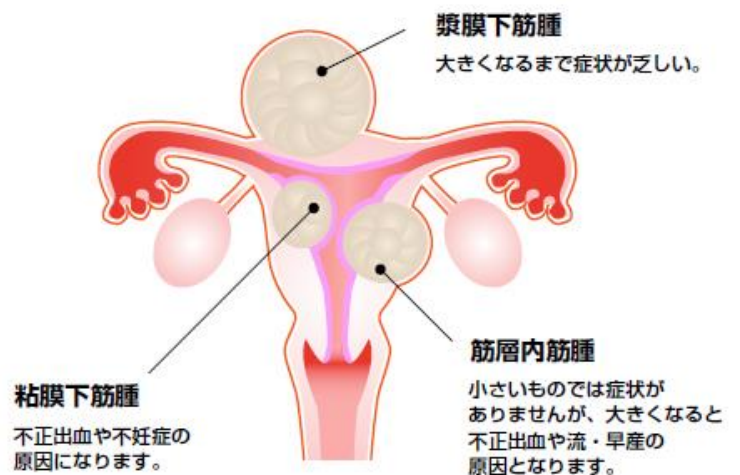
子宮の内部の圧迫がなく、症状のでにくいタイプの筋腫です。

○筋層内筋腫

子宮の筋肉の中から発生します。大きくなると子宮の内部を圧迫し月経量の増加や、期間が長くなる症状がでます。

○粘膜下筋腫

子宮の内部に近い部位から発生します。小さくても月経量の増加や月経期間が長くなるなどの症状がしやすいタイプの筋腫です。



子宮筋腫の症状

○過多月経

月経時の出血量が多くなり、血の塊がでたり月経の期間が長くなります。

○月経困難症

月経時の下腹部痛・腰痛などが、強く表れることがあります。

○圧迫症状

子宮筋腫が大きくなり周囲の臓器を圧迫すると、頻尿・尿失禁・便秘・腰痛などが起こることがあります。

子宮筋腫の治療

○症状がない場合

子宮筋腫は良性の腫瘍であり、症状がなければ経過観察が可能です。

外来にて定期的に子宮筋腫の大きさや状態をみていくことになります。

○症状がある場合

日常生活に支障を来す症状があれば治療が必要になります。

・手術療法

子宮全摘術や子宮筋腫核出術が行われます。手術の術式は筋腫の大きさや個数・発生場所などにより、開腹手術・腹腔鏡手術・子宮鏡手術を選択します。

・手術以外の治療方法

・薬物療法

偽閉経療法と呼ばれる方法で、GnRH アゴニストというホルモン剤を注射もしくは点鼻薬にて投与し月経を止める方法です。副作用として更年期症状がでるため半年程度しか継続できません。

・子宮動脈塞栓術（UAE）

子宮動脈塞栓術は、子宮筋腫を栄養している子宮動脈の血流を詰めることで、血流を少なくし子宮筋腫を縮小させ症状を改善する治療です。

UAE は放射線科の血管内治療専門医がレントゲンの透視下で行います。画像を見ながら足の付け根から子宮動脈までカテーテルを挿入し塞栓物質を注入します。

UAE は自費診療として行われていましたが、2014 年から保険診療にて行うことができるようになりました。

UAE のメリット

- ・子宮を残すことができる。
- ・局所麻酔で治療ができる。
- ・傷がほとんど残らない。
- ・入院期間が短く、社会復帰が早い。

UAE のデメリット

- ・将来妊娠を希望する方は適応にはなりません
- ・再治療が必要となる場合があります。
- ・組織検査を行えないため、悪性腫瘍を完全に否定できません。

UAE の副作用

- ・術後の疼痛・発熱
- ・感染症
- ・卵巣機能低下
- ・筋腫分娩

